

9月1日、2学期の始業式後、全校集会の場で実習生紹介をして頂き、全校生徒の前で挨拶をして教育実習がスタートしました。正式には9月4日から3週間、母校のN中学校で実習をさせていただきました。初日が私の誕生日で、やや緊張しながら誕生日の朝を迎えたことをとても懐かしく思います。担当は受験生の3年生で、他に実習生はおらず、最初は3週間しっかりやりきれぬのかとても心配でしたが、私が在学中にお世話になっていた先生や面識のある先生方が多数いらっしゃり、昔の話で盛り上がったりと、よく声をかけてくださったりして気持ちが楽になりました。担当することになった3年3組の生徒も温かく迎え入れてくれて、先生方や生徒のみんなも接しやすく、誕生日も祝ってくれてとても過ごしやすい環境の中で実習をさせていただきました。

実習前は、昨年秋からの事前指導での学習や春からの授業で教わった内容を、プリントを見ながら振り返って大事なことを確認したり、他の受講生の体験談を参考にしながら構想を立てたりし、準備に取り掛かりました。受験生を担当するということもあり、高校入試の問題集を見て、試験に出そうなところをピックアップするなどし、特に教材研究に力を入れました。春に実習を終えた受講生の体験談はとても参考になり、実習前にある程度ポイントを押さえて臨むことができてよかったです。

実習期間は、先生方の授業を見学させていただいたり、生徒とコミュニケーションをとったり、教室に入れずにいる子たちが集う「ハートルーム」で話をしたり、教材研究などの授業準備・実践をしたり、授業の反省をしてアドバイスをいただきながら改善に努めたり、部活動に行ったり、挨拶運動に参加したり、文化祭のスローガン決めに携わったり、数多くの経験をする事ができ、日々学ぶことばかりでした。また、様々な経験を通じて、教師の仕事の幅広さを実感しました。授業以外にも、生徒指導や学級経営、成績評価、給食指導、放課後や土日の部活動、保護者対応など、多岐に渡る業務をこなしながら、生徒一人一人と関わっている所に、大変さや忙しさを感じながらも「教師」という職に魅力を感じました。また、仕事が幅広い分負担が大きくなるので、先生同士で助け合い、補い合うなど、チームとして動くことが大切だなと思いました。

以下、教育実習の学びの中心として、授業について、担当クラスでの経験と学びについて、校長先生や先生方とのお話を通じて学んだことについて、今後深めていきたいテーマについて、実習を終えての全体的な感想について順に記述していきます。

## ○授業について

授業は3年生4クラスの公民を担当させていただき、1週目は授業見学、2週目から授業実践、3週目の木曜日に研究授業というスケジュールでした。教材研究や授業準備、指導案作成などの授業関係に重きを置かせていただいたので、参考書を読んだり図書館を活用しながら周辺の情報も集めたりし、準備には時間をかけて取り組みました。授業見学では、社会科の先生方を中心に他教科の先生方の授業も見学させてもらいながら、良いと思ったやり方を自分の授業案に取り入れたり、気になったことを質問したり、見て学びながら授業案の改善を重ねていきました。クラスによって積極的に発言する生徒が多かったり大人しかったりと雰囲気の違いがあり、同じ単元の内容でも、クラスの特徴に合わせて生徒を活かした授業展開を考えていくことが大切だなと思いました。授業実践初日は1限から4限まで4クラス

連続での授業で反省や改善をする時間が無いというえ、50分の授業経験が無く時間配分が分からなかったため、1週目のうちに板書計画や時間計画など特に念入りに時間をかけて準備・確認をしました。放課後の教室をお借りして板書練習をしたり、実際の授業を想定して話してみたりしたこともあり、最初の授業は、緊張したものの始まってみると生徒と会話をしながら楽しく授業をすることができました。時間もぴったりに終わることができ、改めて準備の大切さを感じました。また、いい雰囲気です授業ができたことが楽しく、翌日へのモチベーションにもなりました。

目指す授業としては、「暗記科目」という認識を無くし、考えて学ぶ授業、導入や展開で疑問を抱き、中盤以降で気付きや発見のある授業、生徒の声を活かす授業、生徒が自分の考えを発信・交流する授業、そしてなにより、楽しく学ぶ授業を主に掲げ、授業準備をしました。研究授業に向けてアンケートを取ってみると、公民に対して苦手意識を持っている生徒が多く、その理由として、「暗記科目だから」「覚えることが多くて大変そうだから」といった内容が挙げられていました。しかし、社会科は暗記科目ではなく自分で考えて学ぶ理解科目であると思うので、生徒が主体的に参加し、楽しく意欲的に学べる授業を目指しました。

そのために、「なぜ?」「どうして?」と生徒が疑問や興味を持つような考える題材探しに時間をかけ、授業では発問を工夫することを意識しました。導入で生徒の興味をいかに引きつけるかにかかっており、実際に授業を行ってみて、最初の5分の重要性を感じました。展開では、個人で考える時間を取った後でペアや班で考えの交流を行い、その後全体の場で意見交流するなど、活動形態を工夫しました。教科書はあまり使わず、資料として用いたり最後に確認する程度で、基本は視覚教材をもとに個人で考えたりペアや班活動を取り入れたりし、全体での意見交流をするなど、自分の考えを発信する場を多く設けました。

先生方からは、生徒の「なぜ?」を喚起させるなど発問の工夫をすること、話しすぎず生徒自身に考えさせること、「間」をうまく活用し武器にすること、教師を“演じる”ことなどのアドバイスをいただきました。最初の頃は、生徒が参加しやすいように一つの答えを問う発問ばかりでしたが、徐々に生徒の意見を引き出すために、「なぜ?」「どうして?」といった考えや根拠を問う発問を入れていけるようになりました。疑問を投げかけると近くの人と相談して考える子が増え、興味を持ち、授業への参加意欲が高まったように思います。また、一つ一つ噛み砕いて分かりやすく伝えようとするあまり話す内容が多くなりすぎている所があり、話しすぎると生徒のイメージを膨らますことができないとの指摘を受け、なるべく生徒から出た発言を活かしながら一緒に考えていくような形で授業を進めていくことを意識しました。生徒の何気ない発言を拾って全体の場で共有すると次第に生徒たちの発言も増え、自分が話す内容は少なくなり、生徒の声から授業を発展させていく「生徒主体」の学びに近付くような気がし、教師はその学びのサポートをするのが仕事だということに改めて気付かされました。授業を重ねるたびに、生徒の声の中に多くの学びのヒントがあることを感じ、その声を見逃さず次に活かしていくためには常に生徒の声を聴き、自分自身が授業内容の周辺分野の研究も行い、知識をつけておくなどの準備が大事だなと思いました。そして、最も印象的だったのは「教師を演じよ」という言葉です。4クラス続けて同じ内容の授業が続いたとき、4クラス目で慣れから若干気が抜けてしまい、一番反応のいいクラスでの授業でしたがいつもより反応が薄く、振り返ると自分の気持ちが伝染してしまっていたのだと反省しました。生徒たちは先生の様子をしっかりと見ていて、自分が思っている以上に敏感に受け取ることを感じました。逆に、自分が元気に楽しく授業に臨めたときは生徒たちからの反応も良く、いい雰囲気です授業が出

来ました。先生から見た生徒は多数でも、生徒から見た先生は自分一人であり、教壇に立った時には疲れや慣れがあっても常に笑顔で明るく元気に、また、自信をもって堂々とした教師を“演じる”ことが大切だと思いました。また、授業は何度行っても毎回反省点があり、常に改善が伴い、終わりが無い所に大変さを感じつつ、いくらでもよりよくしていくことができるという点に面白さを感じていました。しかし、授業以外の仕事もたくさんあるため、授業準備には力を入れつつも、ある程度の区切りをつけるバランス感覚が必要になってくるなと思いました。

実習最終日には、担当した4クラスの生徒たちが3週間終えての感想を書いてくれて、「普段なかなか発表できずにいたが、進んで意見を言えるようになった」「塾で分からなくて困っていたところが理解できてよかった」「公民に対する苦手意識を克服できた」などのたくさんの嬉しいコメントがあり、様々な準備をしてきてよかったなと改めて思いました。中でも、「初めて社会が楽しいと思った」というコメントは特に嬉しかったです。

### ○担当クラスでの経験と学び

次に、担当クラスについて振り返ります。担当した3年3組は、前もって先生方から伺っていた通りの静かで大人しいクラスだなというのが最初の印象で、関わりを持てていけるか不安ではありました。しかし、一人ひとりに声をかけて話してみると、明るく元気で活発な印象を受け、クラス全体の雰囲気と個人の雰囲気にギャップを感じ、全体で見るのではなく、個人一人ひとりをまず知っていくことが大切だなと初日に感じ、1日に生徒一人と一言は交わすことを目標に3週間過ごしました。

実習3日目、ホームルーム前に女子生徒数人が集まって手紙を書いており、気になって聞いてみたところ、教室に上がれずハートルームに行っている3組の女子生徒(Fさん)宛に書いているとのことでした。春から頻繁に手紙を書いて届けたり、毎朝ハートルームに迎えに行ったりしているが、なかなか教室に入ってくれないとのこと、その子について色々話をしてくれました。そのとき私は、「毎日行っても毎回断られるのなら、一旦そっとしておこうって思ったりしないのかな?」と思い、生徒に聞いてみました。すると、生徒の一人から、「だって、みんなでいる方が楽しいじゃん」という素直な声が即答で返ってきて、自分の中にこだまのように響いてきました。その言葉は、とても純粋で透き通っていました。もし、自分がその立場なら毎日毎日断られても迎えに行きあげようようなことは出来ないだろうなと思いつつ、3組の生徒の温かさや優しさをとても感じました。同時に、みんなの願いを一緒に叶えてあげたいという思いも込み上げ、実習の中で鍵となる一日になりました。4日目の空き時間にハートルームへ行き、初めてFさんと話し、会ってすぐに打ち解けて自分から色々な話をしてくれました。話を聞くと、1年生の頃は積極的で前に出るタイプだったが、2年生になってから周りの目が気になりだして教室になかなか入れなくなったとのことでした。迎えに来てくれている女の子たちの話を持ち出すと、否定的な言葉を出しつつもどこか嬉しそうな表情が見られ、「本当はみんなと一緒に教室に入りたいけど、迎えに来てくれる女の子たちに対して素直になりきれないだけなのだろうな」と感じました。次の授業見学に向かおうとすると、彼女の方から、「先生!私も授業見に行きたい!」と言われ、一緒に3組の授業を見学することになりました。授業を受けない理由として、「先生が嫌い」「信用できない」などと言っていました。実際の先生でも生徒でもない教育実習生である私の立場が丁度よかったのか、時折、素直な面が表れていました。朝の会は、女の子たちに連れられて教室の傍まで来て中には入れない様子で、授業も外からひっそりと眺める形でしたが、5日目は私が隣に座るという条件で社会の授業を教室の中で一

緒に受けることができ、クラスの子たちも嬉しそうに温かく迎え入れてくれて、その様子を見て私も嬉しい気持ちになりました。徐々に受ける科目が増えて教室に入れるようになって、3年生になって初めて教室で弁当を食べることが出来たりなどのサポートが出来たことはとても嬉しく思いました。一日中授業を受けることは、慣れていないことからの精神的な疲れがあるようで出来ませんでした。2週目以降の私の授業は全部出席してくれて、「先生の授業は楽しいから受ける」との言葉は嬉しかったです。また、最初は授業に緊張しながら臨んでいましたが、少しずつ抵抗がなくなって表情が和らいだり、自分から筆記用具や弁当を持って自然と教室に入れるようになってたりなど、彼女の成長を間近で見ることが出来、関わったことはとても貴重な経験になり、やりがいを感じました。

この経験から、自分から歩み寄り、知ろうとすることの大切さを学びました。自分から関わりを持つとすると、生徒たちは素直に受け入れてくれて、お互いを知っていくうちに距離が縮まり、私自身、毎日学校に行くことが楽しみになっていました。3組の生徒は素直で優しく、思いやりがあり、温かいクラスで、日々生徒たちから学ぶことが多く、自分も学びの恩返しとしてさらにクラスの子たちに貢献したいと思うようになりました。Fさんの件で相談を受けたり、かつて私が所属した青ブロックの担当になったことに縁を感じながら、7年前に青ブロック長を務めさせていただいた経験談を基に直近に迫った合唱コンクールに向けてのアドバイスをしたりなど、自分なりに生徒たちのためにできることをしていこうとする中で、指導教員から、「生徒たちは『自分たちの先生』として先生を受け入れている様子がとても伝わってきます」とのコメントを頂いたとき、それまでは、年齢も近い方なので妹や弟のように感じることもありましたが、「自分の生徒」と思うと、親御さんの代わりに預かっているということに対し、改めて責任の重さを感じました。また、より大事にしようと思うようになりました。

授業は、他のクラスでは積極的な発言がよく出ていたのですが、3組は常に静かで先生の発問に対する反応が薄く、3組の授業を担当する先生方からも、「3組さんは他のクラスより授業がしにくいかもしれないね」といった声がありましたが、研究授業は3組で行わせてもらうということは最初から決めていました。研究授業当日、たくさんの先生方が見に来てくださった中、前に立ったとき若干緊張していましたが、生徒たちが「先生、緊張してるやろ？」と言わんばかりの笑顔を見せてきて、その笑顔を見ると自然と緊張もほぐれ、自分も笑顔になり、授業に集中していつも通りに臨むことができました。授業に入ると、今まで以上に積極的に発言が飛び交ったり、班活動での討論が活発に行われたり、普段は発言の少ない子たちからも進んで意見が出て、今までで一番楽しい授業になりました。朝の会で、大事な授業があるということを伝えていたこともあり、授業が終わると生徒たちが「お疲れ様です！」「今日、どうでしたか？」と気にして声をかけてくれたり、「今日の授業、今までで一番良かったよね！みんな積極的でびっくりした！」「楽しかった！」と生徒同士で話して感想を伝えてくれたりし、改めて生徒に助けられ、たくさんパワーをもらったなと感じました。授業の講評においても、「あんなに活発な3組は初めて見た」「3組はあんなに熱いクラスだったのか」といった声が先生方から多々あり、「静かなクラス」と括られるのではなく、3組のみんなの良さが伝わってくれたこともとても嬉しかったです。たくさんの先生が褒めていたことと感謝の気持ちを3組のみんなに伝えると、とても嬉しそうな表情を見せ、改めて温かい3組のみんなに出会えてよかったなと感じました。

## ○先生方から学んだこと

また、実習を通じて校長先生や他の先生方とのお話はとても印象に残っています。「education」の訳語

として「教育」が採用されたが、福沢諭吉は「発育」を勧めており、教師が教授するという受け身な学習ではなく、生徒の可能性を引き出すためのサポートをするのが教師の役割であるということや、ただ知識を詰めるのではなく、実生活に役立つ「実学」こそが学びであるということについてのお話がありました。校長先生、教頭先生ともに社会科の先生であったので、授業と関連して、生徒が学びを欲するような授業展開や、身近な事例を用意して実生活と結び付けた授業にすることなどのアドバイスをいただきました。その他、様々なお話をさせていただき、先生方との会話から学ぶことも多かったです。放課後の職員室には作業をされている先生方が多く、中には机が近い学年の先生同士でよく話している様子も見受けられました。残ってお話をするよりも、作業を早く終わらせて早く家に帰ってゆっくり休む方が、効率が良いのではないかなという気持ちを抱きながら、私も声をかけられその会話に加わることがありました。その中で、「こういう時間も意外と大事だったりする」という言葉がとても印象に残っています。実際、日中は担当クラスの授業や、準備などで慌ただしく時間が過ぎることを感じました。部活動を終え、生徒を帰して、自分の作業に専念できる時間となった放課後の職員室では、その日の出来事や最近気になっていることなど、先生同士での生徒の様子に関する情報の共有や、相談事など様々な話がされており、教師一人の業務が幅広い分、先生方と協働して学校を運営していくには大事な時間なのだなとも感じるようになりました。学年の先生方が3年間かけて大事に育てているというお話も印象的でした。自分のクラスの運営だけではなく、学年の先生方による学年運営、そして、全体の学校運営にあたっては先生同士のつながり、チームワークも目標とする学校像に導くための大事な要素になってくると感じました。

### ○今後、深めていきたいテーマ

ある先生とのお話の中で、「最近の子どもは脳や体の栄養が足りていない。我慢が効かなかったり、集中力が持続できなかつたりしている。親が栄養のあるご飯を作れていないように思う。」との声がありました。今まで「食」に対して深く考えたことはあまりありませんでしたが、子どもの食事の傾向が、健康状態や学習意欲に直接関係しているのであれば、家庭における食生活の改善や食育の推進が、学校現場の学習能率の向上に結びつき、学びが活発になると同時に、低いレベルでの注意の声かけが減ることから先生方の精神的な負担の軽減や業務の効率化にもつながるのではないかと考えました。私は普段、夜型の生活になりがちですが、実習期間中、実家で毎朝同じ時間に起きてしっかり朝食を採って一日が始まると、朝から活力が湧き、夜には眠気が来てぐっすり眠れ、食事や睡眠がもたらす心身への影響の大きさを、身をもって体感しました。近年、子どもの不健康が問題視されていることもあるので、今後、親になっていく若い世代における健康に対する意識の改革や食育の推進なども、大事になってくように思い、私も学ばなければならないなと感じました。「アクティブ・ラーニング」という言葉が浸透しているように、今後、自らの意見を表現したり、他者と交流したり、主体的に学びを深めたりといった活動が進む中では、自分で考える力や他者とのコミュニケーション力が大事であると思うので、その土台としての心身の健康も、より重要になってくように感じました。これらを踏まえ、今後、子どもの健康のための家庭・学校・行政・地域の役割などについて調べていきたいと思いました。

### ○実習を終えて

3 週間を振り返って、実習前の想像を大きく上回る学びや経験があり、毎日が濃く充実した時間でし

た。教職を1回生の頃から取り始め、卒業所要単位に含まれないことや、部活動の関係や、ゼミ活動が本格化するなどの中で、教職をやめようかなと思うことも何度かありましたが、これまで続けてきたことで3週間の貴重な経験が出来たので、本当に最後まで教職課程を取り続けてきてよかったなと思っています。実習を通じて、さらに教育現場に対する関心が高まり、教育に携わりたいという思いがさらに強まりました。経験するかしないかでこんなにも気持ちの持ちようが変わるのかと思うと、何事も経験していくことが大切だなと感じ、これからもたくさんの経験を積んでいこうという思いも強くなりました。これからも、様々な機会を活かしあらゆる面で学びを深めていこうと思います。